



## 日本学術振興会バンコク研究連絡センター

活動報告(2011年1月～3月)

バンコクの風 ลมจากกรุงเทพฯ



### Cheering message to Japan from Thailand



I pray for rapid recovery of Japan and Japanese people. *Pattaradee*

With my heartfelt sympathy to the unavoidable circumstances in Japan on 11<sup>th</sup> March 2011, I hope Japan / Japanese people will be recovered soon. *Bunde Yung*

God please save Japan Porphant Ant

*Sunee Vallikarn*

*Kot R., Ph.D. Sprockel*  
Malin UABHARASOAN, Ph.D.

Wishing fast & smooth recovery for Japan

May God Bless Japan recover from Tsunami's tragedy soon  
*Jinaporn S. Samsatit*

がんばって下さい。 *B. Techarumant*



President, JAFT, Prof. Busaba Yongsmith  
Director, JSPS Bangkok office, Dr. Wataru Takeuchi

[JAFT board meeting @ March 30, 2011]

2011年3月11日の震災及び津波被害に対し、タイ国 JSPS 同窓会理事会より寄せられたお見舞いメッセージ。

このほか、タイ国内外より、お見舞いや義捐金の申し出が寄せられています。金銭的な申し出については、在タイ日本大使館を通じて行っていただくようお願いしています。

東日本大震災以来、タイでは日本関連の報道が続いており、様々なチャリティイベントも行われています。当センターとしましても、被害に遭われた方々の心身および生活がいち早く回復することを、心よりお祈りしております。

## ■ JSPS 国際フォーラムを開催 ■

2011 年 1 月 6 日（木）と 7 日（金）にかけて、バンコク市 Siam City Hotel, Bangkok にて、JSPS 国際フォーラム「Climatic Changes in Monsoon Asia (CCMA)」を開催しました。日本学術振興会が支援を受けている文部科学省科学技術振興調整費「アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流」の一環として開催されたものであり、また、JSPS のタイ国での対応機関であるタイ国家研究評議会（National Research Council of Thailand (NRCT)）からも協賛を得られました。

NRCT からは事務局長である Dr. Soottiporn Chittmittrapap にもご参加いただいたほか、多くのスタッフに参加・協力をたまり、これなしでの円滑な実施は困難であったと思われ、感謝に堪えません。

パキスタン以东のアジア全域から研究者・実務者を含む 37 名の講演者を招き、2 日間で延べ 170 名余りが参加して、熱い議論を繰り広げました。5 名の特別講演では、モンスーンアジア地域における地球環境変動の社会的インパクトの軽減策について、俯瞰的かつ具体的な提案がなされました。



参加者一同での記念撮影

本会議の講演者の中には、Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC)の執筆者として活動をしている研究者も複数おり、モンスーンアジア地域から世界に向けて科学的な知見が発信された意義は極めて大きいものといえます。

また、MAHASRI, AMY, MAIRS, iLEAPS, SATREPS, CTCA, SAARC などの国際的なプログラムをリードする代表研究者や若手研究者によるポスター発表も盛況で、欧米にも劣らない堂々たる会議を主催できたことは JSPS のアジア地域での活動の重要性を示唆するものといえ

と考えております。

なお、プログラムや当日の発表スライドは各発表者の同意を得た上で当センターホームページに掲載しています。<http://jsps-th.org/?p=732>



気さくな Dr. Soottiporn 事務局長



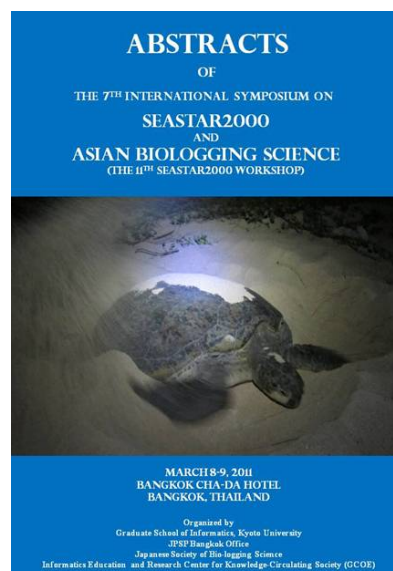
会場の様子

## ■ 国際シンポジウムの共催について ■

2011年1月11日(火)、京都大学情報学研究科の荒井修亮 准教授が当オフィスを訪問され、2011年3月8-9日にバンコク市内 Bangkok Cha-Da Hotel にて、同研究科が中心となって開催する The 7th International Symposium on SEASTAR2000 and Asian Bio-logging Science (The 11st SEASTAR2000 Workshop)について、共催者としての参加をお誘いいただきました。

これは池島前センター長の頃から共催を行ってきたものであり、今回も喜んで、前回までと同様の協力をお約束しました。

絶滅危惧種であるウミガメ類の保全を目的に、その生態や行動を観察し理解することを基本とした取り組みで、バンコクからも遠くない地点で実際にウミガメの観察を行っているというお話を聞き、いずれフィールドワークにもご一緒するなど協力を深めていきたいと考えています。



## ■ 京都大学関係のシンポジウムへ ■

2011 年 1 月 19 日（水）、京都大学エネルギー科学研究科の大垣英明 教授が当オフィスを訪問され、2011 年 3 月 8-9 日にバンコク市内チュラロンコン大学で開催予定の京都大学とアセアン大学連合（AUN : ASEAN University Network）の共同ワークショップ「協働と交流による学術パートナーシップの構築（AUN-Kyoto University Workshop on Building Academic Partnership Through Collaboration and Exchange）」について、参加のお誘いをいただきました。

AUN にはブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、ベトナム、タイという 10 カ国の大学が参加しており、これだけの国々から大学関係者が集う機会は貴重であることから、JSPS 及び当オフィスの事業紹介をさせていただく了解を得ました。なお、日本で AUN と交流協定を締結しているのは京都大学のみです。

また、大垣教授がコーディネーター的な役割を務めている SEE Forum の第 8 回（マレーシア）と第 9 回（バンコク）のシンポジウムについても参加の可否や意向を尋ねられ、当オフィスとしては可能な限り参加していきたい旨を回答しました。

SEE Forum（Sustainable Energy and Environment Forum）は 2006 年に設立された、地球的な課題としての持続可能なエネルギーと環境についての議論を行うアジア・太平洋地域の学術的なネットワークで、40 以上の学術・研究機関が参加しています。2009 年 5 月には第 5 回シンポジウムがバンコクで開催され、池島前センター長および長谷川地域交流課プログラムマネージャーが挨拶と事業説明を行いました。

## ■ 事務所共用に向けた JASSO との協議 ■

2011 年 1 月 20 日（木）、平成 22 年 12 月 7 日の閣議決定に基づいた学生支援機構（JASSO）バンコク事務所との事務所共用について、当オフィスで協議を行いました。JSPS からは、国際事業部より加藤久部長及び満井祥子研究協力第一課海外センター係長が、JASSO 側からは宮本隆正 財務部長 及び 山崎晃弘 同部主計課予算係長が来訪されました。



左から、萩原 JASSO タイ事務所長、宮本部長、山崎係長、満井係長、加藤部長

加藤部長及び満井係長は前日よりバンコク入りし、打ち合わせまでに、航空宇宙開発研究機構（JAXA）バンコク駐在員事務所、国際交流基金バンコク日本文化センター、JASSO バンコク事務所、大阪大学バンコク教育研究連絡センターの各オフィスを視察したほか、JSPS のオフィスが転居することになった場合、その転居先となりうるスペースの視察などを済ませており、それらを踏まえた上での協議となりました。

その場では結論には至らず、事業面での連携も含めた JSPS バンコクと JASSO バンコクの連携の可能性・選択肢が洗い出され、引き続き東京本部同士での話し合いを行っていく予定です。

## ■ NRCT を表敬 ■

2011 年 1 月 24 日（月）、当センターのメンバー全員でタイ国家学術評議会（National Research Council of Thailand（NRCT））のオフィスを表敬しました。2011 年 1 月 6-7 日に開催した JSPS 国際フォーラム「Climatic Changes in Monsoon Asia（CCMA）」での共催と協力に対して感謝を述べるとともに、20011 年 2 月 4 日に開催の、「JSPS-NRCT RONPAKU Medal Award Ceremony」への協力をお願いしました。

これは論文博士号取得希望者に対する支援事業で博士号を取得されたタイ人研究者を表彰するもので、毎年、JSPS バンコクオフィスと NRCT の共催で行われています。2010 年からは、タイ国 JSPS 同窓会（JSPS Alumni Forum of Thailand（JAFT））の総会と同日開催されており、2011 年も第 2 回総会との同日開催となっています。

今回第 2 回の同窓会総会では、NRCT 事務局長である Soottiporn 博士を、同窓会名誉会員としてお迎えすることが理事会で決定されていることから、JAFT の代理として、Soottiporn 事務局長あての招待状をお渡ししました。

また、表彰式で NRCT としてのご挨拶をいただくことなどが前向きに話し合われ、今回も当オフィスと NRCT との友好な関係を確認することができました。



左から Ms. Aunchalee、副センター長、センター長、Ms. Choosri NRCT 国際部長、Ms. Pawanee Nakdee、Ms. Anchan Tondeaw

## ■ 若手研究者の集い ■

2011 年 2 月 1 日（火）、東京大学生産技術研究所の小森大輔 助教が、当センター長と研究打ち合わせのためオフィスを来訪されました。京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科の博士課程学生である佐治史さんをご紹介いただき、ちょうど翌日から運河でボート生活をするという、地域に根差した研究の様子を聞かせていただくともに、センター長から、そこに統計データなどの自然科学的な視点を組み入れることで研究内容の深まりを期待できることなどを助言させていただきました。

今回のような若手研究者のサポートはもちろん、分野や目的は異なれど東南アジア・タイという地域を同じくすることをきっかけに広く有的な研究コミュニティを築いていくことも、当オフィスとしては今後ますます行っていきたいと考えています。



センター長、佐治さん、小森助教

## ■ Inventor's Day を視察 ■

2011 年 2 月 2 日（水）、タイ国家学術研究会議（National Research Council of Thailand(NRCT)）の主催により Nonthaburi にある Impact Arena にて、5 日まで開催の International Inventor's Day Convention を、当オフィスのメンバーで視察しました。

1994 年に「Inventor's Day」（毎年 2 月 2 日）が制定され 2001 年以降は NRCT が中心となり各種イベントを開催しています。2 月 2 日は、開会式とあわせて、INVENTOR AWARD の授賞式が開催され、アピシット首相より受賞者へ記念品などが贈呈されました。

今年は、国際発明者協会（International Federation of Inventors' Associations、IFIA）から海外の機関も加わり展示会を行っており、中学校から大学までの学生による展示や、韓国及びロシアから民間企業の参加も多く見られました。



## ■ JSPS 同窓会がワークショップを開催 ■

2011年2月3日（木）、バンコク市内 Kasetsart University（カセサート大学）にて、タイ国 JSPS 同窓会（JSPS Alumni Forum of Thailand(JAFT)）が主催の Workshop on Biochar: a Carbon Negative Technology Approach to Urban Community Development が開催されました。

これは、地球温暖化対策と同時に土壌改良や貧困解消対策など広く社会的な効果も期待される取り組みとして注目されている Biochar（バイオ炭）の利用技術について研究セミナーで、バンコク都市部の各コミュニティから、地域のリーダーを含む市民が約 160 名参加する盛大な取り組みとなりました。

当日は日本から Biochar の権威である 2 名の講師を招いて講義と挨拶をいただいたほか、当センター長も衛星を利用した環境問題の鳥瞰的な見方について講演を行いました。

講義・挨拶をいただいた講師

：立命館大学衣笠総合研究機構地域情報研究センター 柴田 晃 客員教授

：立命館大学大学院政策科学研究科 鐘ヶ江 秀彦 教授

このほか、タイ側からは 2 名が、タイにおける Biochar 利用とバイオマスペレットについての講義を行い、参加者はいずれも真剣に聞き入っていました。

：カセサート大学社会科学部 Associate Prof. Dr. Orasa Suksawang

：カセサート大学森林科学部 Associate Prof. Songlod Jarusombat

午後からは簡単なキットを用いて実際に Biochar を作るグループ実験を行いました。その後、グループごとの集団発表が行われ、各地域で具体的にどのように Biochar を作り利用していくのかについて真剣な議論が交わされました。



JSPS Alumni が中心となって、地域の特性に応じた科学的実践の普及に努めるという、有意義な時間となったと考えています。

なお、プログラムや報告書はセンターホームページに掲載しております。

<http://jsps-th.org/?p=972>

左から、柴田客員教授、鐘ヶ江教授、Assoc. Prof. Panit Khemtong カセサート大学副学長、Dr. Busaba 同窓会長、Mr. Thongchai Baitrakul Director of Environment Bangkok Metropolitan、センター長

## ■ 第2回同窓会総会を開催 ■

2011年2月4日(金)、バンコク市内 Siam City Hotel, Bangkok にて、JSPS Alumni Forum of Thailand (JAFT) の第2回総会が開催されました。同窓会は2010年2月5日に Dusit Thani Hotel Bangkok で第一回の総会が開催されたと同時に発足しており、発足後としては、初の総会です。約40名の参加者を迎え、同窓会長である Prof. Dr. Busaba Yongsmith が同窓会発足の経緯と目的をはじめとして、22年度中の同窓会活動報告や名誉会員資格の授与など、重要事項の議事を進めました。

会は全面的にタイ語で展開され、参加者からは積極的な発言が相次ぎ、熱い議論の場となりました。また、同日開催された論文博士号取得者へのメダル授与式に出席した新規取得者が同窓会への参加を希望するなど、同窓会はその活動のさらなる発展と活性化に向けて着々と歩を進めています。

夕方からは懇親会が行われ、それぞれに日本での思い出話を披露し合うなど、乾季バンコクの清々しい空気のなかで和やかな時間を楽しみました。



Dr. Busaba 会長



Dr. Sunnee、Dr. Songsri、Dr. Busaba、Dr. Suvit、Dr. Malee 各理事

## ■ 論博メダル授与式を開催 ■

2011年2月4日(金)、第2回同窓会に引き続き、バンコク市内 Siam City Hotel, Bangkok にて、JSPS-NRCT RONPAKU Medal Award Ceremony を開催しました。

論文博士号取得希望者に対する支援事業により、2009 年度に博士号を取得した研究者の方々に、その栄誉をたたえ、より一層の研究を奨励することを目的として、メダルを授与するものです。

今回は在タイ日本大使館より坂入倫之一等書記官にお越しいただいたほか、NRCT より Vice Secretary-General である Mrs. Kanchana Pankhoyngam にもご参加いただき、挨拶をたまわりました。

このセレモニーは 2003 年 3 月に JSPS-NRCT Joint Meeting for RONPAKU Fellows と題して第一回を開催して以来、毎年 NRCT と共催しています。2010 年 2 月にタイ国 JSPS 同窓会が発足したのをきっかけに、その名を JSPS-NRCT RONPAKU Medal Award Ceremony と改め、その第 2 回となりました。

今年は 10 名の新規博士号取得者がおり、そのうち 8 名がセレモニーに参加されました。JSPS 同窓生を中心とした約 40 名が見守る中、JSPS 国際事業部 星野有希枝 地域交流課長より各人へのメダル授与とそれぞれのメダル授与者による博士論文の発表が行われ、暖かなムードの中にも緊張感のある時間となりました。同窓会内での世代を超えた交流と情報交換を行う貴重な機会となっています。<http://jsps-th.org/?p=649>



星野課長からのメダル授与



## ■ ラオス出張：日本森林技術協会の現地報告会に参加 ■

2011年2月7日（月）、

参加者による記念撮影

要請を受け、ラオス・ビエンチャン市内ラオプラザホテルにて開催された「津波等自然災害防備事業に係るラオス現地報告会」に、センター長及び副センター長が参加し、業務紹介等を行いました。

これは同協会が5年間にわたって実施してきた、災害防備という観点で森林の管理・運営に関する機能と効率の向上を目的とした事業の最終報告会に当たるもので、当日は航空宇宙開発研究機構

（JAXA）など日本機関も含む30名近くの関係者が参加しました。

当センターとしては、5年に及ぶラオスでの人材育成を、論文作成など、さらなる学術的成果に導くことで、地域における一層の波及的効果をもたらし、さらには学術分野での貢献を期待できるものと考え、JSPS事業の紹介を行うこととしました。

また、同協会メンバーのラオスでの今後の継続的な研究を手助けできるものとして、JSPS-JICAの枠組みで行う「科学技術研究員派遣事業」の紹介を行い、同協会としても非常に高い関心を示されました。

なお、今回ラオス側でのカウンターパートを務めた、同国農林省統計情報センターのセンター長である Dr. Thateva Saphangthong は日本で学位を取得されたこともあり日本語が堪能で、当センターとしても、JSPS 同窓会の発足を視野に今後も協力関係を維持していきたいと考えている。



メコン川の夕日



参加者による記念撮影

## ■ 京都大学理事の来訪、同窓会及び東南アジアフォーラムを視察 ■

2011 年 2 月 11 日（金）、京都大学より塩田浩平 理事・副学長、清水展 東南アジア研究所長、川口泰史 総長室担当課長が来訪されました。

京都大学は副センター長の派遣元大学でもあり、タイにおける日本の大学のプレゼンスなどが話し合われ、例えば、タイの大学と連携をとり、経費を相互に負担しながら退官教授を長期間にわたって滞在させ講義などの教育活動をしながらい人材育成を行っていくというアイデアなどが出されました。

同日夕刻より、京都大学東南アジア研究所バンコク連絡事務所にて京都大学バンコク日本人同窓会主催の年次パーティーが行われ、副センター長が視察しました。

この場へは先日のラオス出張でお世話になったラオス Kyoto University Network in Laos の Dr. Thateva Saphangthong 代表と、9 月の出張でお世話になったベトナム Kyoto University Vietnamese Alumni の Dr. Do Van Truong 事務局長が招待されており、図らずも、東南アジアにおける JSPS 同窓会活動と、京都大学同窓会活動のキーパーソンが顔を合わせる形となりました。

翌 2 月 12 日、バンコク市内マンダリンホテルにて、京都大学東南アジアフォーラムが開催され、副センター長が視察しました。これは、2007 年度以降インドネシアとタイで毎年 1 度ずつ開催しているもので、回のフォーラムは、タイ人同窓生の希望で「地震のメカニズムと防災」をテーマとなつたということです。

当日は、約 100 名のタイ人の一般参加者が集まり、尾池和夫 前総長から地震のメカニズムについての長年の研究成果に関する講演がありました。



清水所長、塩田理事・副学長、副センター長

副センター長、Dr. Thateva、Dr. Truong



### ■ JASSO 理事が来訪 ■

2011 年 2 月 25 日（金）、学生支援機構（Japan Student Service Organization（JASSO））本部より樫尾孝理事が来訪されました。JASSO からの訪問は、昨年 12 月の高橋課長、今年 1 月の宮本部長に続き、3 度目となります。

樫尾理事からは、東京お台場にある JASSO の施設である国際交流館の扱いなどの説明があり、続けて、同行した萩原 JASSO バンコク事務所長から、今後、JASSO バンコクが実施する事業への JSPS バンコクの参加など連携と協力の要請が行われました。



萩原所長、樫尾理事、副センター長

### ■ スリランカ出張：モラトゥワ大学及び大学助成委員会表敬 ■

2011 年 3 月 1 日（火）より 5 日（日）まで、センター長及び副センター長がスリランカへ出張しました。目的は 2 つあり、国内主要大学であるモラトゥワ大学（University of Moratuwa）を訪問し、JSPS の同窓生らとの同窓会設立に向けた意向調査を行うことと、大学助成委員会（University Grant Commission（UGC））を表敬し、スリランカ国内の科学技術および大学事情の聞き取りを行うことです。

3 月 3 日、モラトゥワ大学での打合せは工学研究科長室で行われ、Prof. U.G.A.Puswewala 工学研究科長のほか、研究科教員の Dr. Jagath Manatunge、Dr. L.I.N. De Silava、Dr. Lewanagamage C. S., Mr. T.D.C. Pushpakumara、及び Dr. Shiromi C.S. Karunaratine が同席されました。

モラトゥワ大学は工学分野でスリランカのトップに位置づけられる大学で、日本の文部科学省奨学金での元奨学生（MEXT 奨学生）が非常に多くいると同時に、MEXT 奨学生と JSPS Alumni が混同して認識されている感触がありましたが、上記メンバーのうち Dr. Manutange

及び Dr. Shiromi が JSPS Alumni であり、自分たちを含めたスリランカ国内の JSPS Alumni のリストを作成して、改めて JSPS のネットワークを築くことに非常に前向きな姿勢を示していただきました。

左から Dr. Shiromi, Dr. Manutange, Dr. Lewanagamage, Mr. Pushpakumara, Dr. De Silva, Prof. Puswewal 工学研究科長

Dr. Samaranayake は政治科学の学位を英国で取得しており、日本の横浜国立大学で Visiting Professor の経験があるということです。

スリランカの学校制度は10年の初等教育、2年の中等教育を経て、4年の大学教育に至ります。最初の10年間で義務教育で、中等教育に進むものが約半数。大学に進学するのはさらにその数パーセントで、適正年齢全体の10パーセント未満とのこと。スリランカでの国立大学の学費は無料ですが、予算上の制約から55,000人の進学希望者に対して、22,500人のみが進学できる状況で、国立大学へ進学できなかったものは国内の民間の大学（非公認）または外国留学を行い、スリランカの制度外の学士を取得するとのこと。政府は近く私立大学の承認を行う可能性がある。なお、大学制度は1942年にイギリスをモデルに開始しているが、Chairman自身はアジアモデルに変更する必要があると感じているということです。

ペラデニヤ大学（Univ. of Peradeniya）とコロombo大学（Univ. of Colombo）が総合的に上位大学とされており、モラトゥワ大学は工学系の大学として上位の大学とされています。

Chairman 及び Acting Vice Chairman とともに JSPS Alumni をリスト化・ネットワーク化し、活動を活発化させることに非常に前向きな見解を示されました。日本がスリランカに対する援助国であり続けたこと、スリランカと同じ仏教国であること、戦後復興のモデルであることなどから、日本に対しては非常に友好的な感情を抱いている様子がうかがえます。

当センターとしては今後も、モラトゥワ大学の Alumni や UGC との友好な関係を維持・発展させていきたいと考えています。



Dr. Samaranayake, Dr. Rajapakse, センター長, Ms. Wathsala (Faculty of UofM)

#### ■ アセアン大学連合 - 京都大学ワークショップに参加 ■

2011年3月8日（火）、Chulalongkorn University（チュラロンコン大学）にて開催されたアセアン大学連合（ASEAN University Network (AUN)）と京都大学によるワークショップ「協働と交流による学術パートナーシップの構築（AUN-Kyoto University Workshop on Building Academic Partnership Through Collaboration and Exchange）」に参加し、事業紹介を行いました。

京都大学と AUN は 2009 年 12 月に学術交流・協力の覚書を結んでいます。今回のワークショップは、学生交流、博士課程大学院生の共同指導、持続可能な社会に向けた研究協力、という 3 点について行動計画を検討するもので、AUN 側からの働きかけで開催されたとのこと。

当オフィスは京都大学よりお話をいただき、参加させていただきました。

議題は学生レベルでの交流を中心としたものでしたが、AUN 参加大学があるブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、ベトナム、タイ及び日本という多くの国々の参加者に向けて、JSPS という日本のファンドの存在を紹介できたことは大変に意義深いものであったと考えています。

晩さん会の席では早速、ブルネイのブルネイ・ダルサラーム大学（Universiti Brunei Darussalam）の関係者から、ぜひ事業紹介を行ってほしいとの要請を受けました。当オフィスとしては、東南アジアにおいて JSPS の存在をより深く浸透させることを目指し、前向きに渡航・訪問を検討しています。

なお、今回のワースショップでは京都大学タイ同窓会のネットワークを活用し、東京三菱UFJ 銀行、双日株式会社、日本損保、三井住友銀行、トヨタ・モーター・アジア・パシフィック・エンジニアリング&マニュファクチャリング株式会社といった民間企業がスポンサーとして名を連ねました。



センター長、Dr. Nantana Gajasen



晩さん会の席で挨拶する京都大学東南アジア研究所 河野教授

## ■ 立命館大学 島村准教授 訪問 ■

2011 年 3 月 9 日（水）、立命館大学の島村靖治 准教授が当オフィスを訪問されました。直接の面識は薄かったものの、島村教授と当センター長の互いに関与しているプロジェクトに共通点があったため、今回のご訪問になった次第です。JSPS の事業説明を行った後、研究内容の話を進めていくうちに、島村准教授と当センター長が相互に補完的な関係を築ける大きな可能性が見出されました。

今日もバンコクを起点に新たな研究の可能性が広がっています。



センター長、島村准教授

### ■ JST 矢野シニア・プロジェクト・コーディネーター来訪 ■

2011 年 3 月 10 日（木）、科学技術振興機構（Japan Science and Technology Agency（JST））シンガポール事務所より、矢野シニア・プロジェクト・コーディネーター（SPC）が来訪されました。

今回の来訪は、2010 年 9 月 7 日の矢野氏の来訪、2010 年 10 月 15 日の当方のシンガポール事務所訪問に続く、JSPS と JST の東南アジアにおける 3 度目の面談となります。

今回の面談では、双方国の情報交換ほか、それぞれが事業説明を行う際に用いる双方のプレゼン資料の交換・共有を行いました。

3 月 8 日に参加した AUN-KU ワークショップでも実感したとおり、当方では日本の科学技術政策におけるファンドの仕組みをより包括的に提示・説明する必要を感じており、矢野 SPC も同様の問題意識を持っておられたため、非常にスムーズな資料交換が行われました。

また、この席では、昨年が続いて今年も 8 月下旬に開催される予定の NRCT 主催 Research Expo 2011 への、JSPS と JST の共同出展または共催による JAPAN Section（仮）の開催について極めて前向きな賛同が得られました。今後、当オフィスより NRCT への申し出、相談を行うなどし、調整を行っていく予定です。



矢野 SPC、センター長

### ■ 京都大学東南研究所バンコク事務所 駐在者の交代 ■

2011年3月10日（木）、京都大学東南アジア研究所のバンコク連絡事務所より、柴山守 教授 及び 星川圭介 助教 が来訪されました。

このたび3月3日をもって、1年に及ぶ星川助教の駐在期間が終了し、次期駐在者である柴山教授への引き継ぎの一環として当オフィスを訪問いただきました。

柴山教授のご専門は地域情報学で、リモート・センシングを専門とする当センター長とは研究範囲・関心の重なる部分もあり、今後ともお世話になることをお願いしました。

また、星川助教には駐在期間中たいへんお世話になり、お礼を述べさせていただきました。

なお、柴山教授の駐在期間は3か月の予定とのことです。



星川助教、柴山教授、センター長

### ■ 京都大学ベトナム共同オフィス新江所長来訪 ■

2011年3月10日（木）、京都大学ベトナム共同オフィス（VKCO）より、新江利彦 所長及び、スタッフの Ngo Thi Thao（ゴー・ティー・タオ）氏が来訪されました。

VKCOは、京都大学地球環境学堂がもともとハノイとフエに設置していたオフィスを、グローバル30で「海外大学共同利用事務所」に選定されたことをきっかけに、2010年9月17日に開所したもので、ベトナム国家大学ハノイ校内にあります。新江所長のほか、副所長以下6名のベトナム人スタッフが勤務しているとのこと。

新江所長からはベトナムの文化に基づく、ベトナム人の JSPS プログラム利用の難しさなどが説明されました。たとえば、ベトナムでは親族がなくなった際に喪に服する習慣があり、海外からベトナムへ帰国する必要があるため、外国人特別研究員等を受給中でも期間中に辞退する必要が生じるということ。

このほか、論文博士取得希望者に対する支援事業や外国人特別研究員への申請手順等についてベトナムの研究者から問い合わせがあるということで、説明をさせていただきました。

また、ベトナムでの同窓会組織の設立をはじめとした当オフィスの取り組みについて、今後ご協力をいただけるようお願い申しあげました。



新江所長、ゴー・ティー・タオ氏、センター長

#### ■ 池島前センター長来訪 ■

2011年3月10日（木）、当センターの前センター長である 池島 耕 高知大学 准教授が来訪されました。今回はご自身の研究用務のほか、NRCT への研究報告提出の空き時間を利用してのご訪問となり、現センター長と研究内容等について懇談された。

このほか、当オフィスが力を入れている同窓会組織の立ち上げ支援について、フィリピンへの支援が有効であることなど、前センター長としてのアドバイスをいただきました。



池島前センター長、竹内現センター長

## ■ ナノテクノロジー写真展 ■

2011年3月29日（火）、バンコク市内チャムチュリースクエアのサイエンススクエアにて、Discovery Science: The secret of Nano Technology と題した写真展の開催式典が開かれ、当オフィスより副センター長およびタイ人スタッフが視察しました。

この写真展はタイ国科学技術省と在タイ・ドイツ大使館が協力して企画したもので、ドイツのマックスプランク研究所内で実施される研究・実験関係の写真コンテンツでの優秀作品を展示するものです。

科学技術省管下の国立博物館（NSM）では、青少年に対する科学の啓蒙を目的としてサイエンススクエアを展開しており、今回の写真展もナノテクノロジーへの関心を高めることを目的に、2011年5月まで開催される予定です。

開催式典では、在タイ・ドイツ大使と国立博物館副館長が挨拶を行い、テープカットを行って、写真展の開催を祝いました。



写真中央の女性がドイツ大使、右から2人目が NSM の副館長、右端が副センター長

## ■ 第4回同窓会理事会 ■

2011年3月30日（水）、当センターの入居するバンコク市内 TWY オフィスセンターにて、タイ国日本学術振興会同窓会（JAFT: JSPS Alumni Forum of Thailand）の第4回理事会が開催されました。

同窓会長の Dr. Busaba Yongsmith をはじめ、8名（定員12名）の理事が出席し、センター長を交えて議事が進行されました。

議事開始に先立ち、センター長が、2011年3月11日に日本で発生した地震及び津波に関する手短かな報告を行い、支援や励ましの声をいただいているタイの人々に対する謝意を述べました。その後、出席者全員で被害者・被災者に向けて黙とうを行いました。

議事では、2010年2月4日に開催された第2回同窓会総会での議事内容の確認が行われ、同窓会の登録住所をNRCTにおく予定や、NRCT事務総長の名誉会員授与を延期したこと、同窓会銀行口座の変更予定などが説明・確認されました。

また、第3回理事会にて定義が確認された「当初メンバー」について、今回当センターが用意したリストに基づいてメンバーの認定を確認しました。このほか、総会と同日に開催された論博メダル授与者10名から入会申し込みがあったとの報告があり、これを承認し、その後新たに入会申し込みがあった一名を承認しました。

これにより、同窓会は発足当初の会員数が74名、その後、2011年3月30日現在の会員数が85名となりました。

このほか、2011年度内の行事として、5月20日（金）に、第一回BRIDGE Fellowshipの派遣者として渡日したDr. Busabaの報告会を、次回理事会と同日に実施することが決定されました。



後列左女性から 4, 2, 3, 1, 7

手前左男性から 6, 8, 5

左端が 9

1. Dr. Busaba Yongsmitth 会長
2. Dr. Boonchai Techaumnat 事務局担当理事
3. Dr. Malee Uabharadorn 財務担当理事
4. Dr. Jiraporn Chauvalit レセプション担当理事
5. Dr. Somkiat Supadech 登録担当理事
6. Dr. Porphant Ouyyanont 広報担当理事
7. Dr. Sunee Mallikamarl 理事
8. Dr. Chalermkiat Songkram 理事
9. 竹内 渉 JSPS バンコク研究連絡センター長

## ■ 教育省、大幅な予算増を要求 ■

教育省は 2012 年予算として 5,500 億バーツを要求。これは今年の 40 パーセント増の数字である。

内閣が来年度予算 2 兆 2,000 億バーツを定めたところ、教育大臣 Chinnaworn Boonyakiat は同省が 5,510 億 1,500 万バーツの予算要求をする予定であることを明かした。

同省はまた「関連資金」として 41 億バーツを要求する予定。この資金は教員・教育人材開発基金、教育テクノロジー基金、および地域サイエンススクールである Chulabhorn Rajawittayalai 校ネットワークの設立に用いる予定。また、現在実施中の学童に教科書を提供する Study Well for 15 Years プロジェクトにもあてられる。

「教育省は 5 つの主要機関を有しており、本年度予算はすでに 4,000 億バーツに達している。これら主要機関には予算設定、予算運用手順、予算運用効果の評価について予算局と連携してもらいたい」と Chinnaworn 大臣は言う。

Chinnaworn 大臣によれば、教育省は過去には 4,000 億から 5,000 億バーツの比較的大きな予算を扱ってきた。その大半は教員の給与や手当に用いられ、投資的な運用は 20 パーセント以下だった。大臣は、同省が透明性とグッドガバナンスにより予算を教育の質の改善のために用いることを、市民には確信してほしいという。

(2011 年 1 月 27 日 Nation 紙)

## ■ 入試の混乱 大学は不透明性に苦しむ ■

多くの大学が、合格した学生が入学を報告してこないという個別入試システムにより危機に立たされている。

この悪化していく問題に対処するため、タイ学長協会の理事会は 2 月 12 日に個別入試と統一入試のより適切な役割を考える会議を設けると、タイ学長協会会長であり理事会議長でもある Prasart Suebka 教授が先週語った。

チュラロンコン大学の理学部長 Supot Hannongbua 教授と教育学部長 Sirichai Kanjanawasee は他の多くの大学と同様にチュラロンコン大学もこの問題に苦しんでいると Nations 紙に語った。

Sirichai 氏によると、チュラロンコン大学の個別入試に合格したうち 40 パーセントの受験生が新入生として登録を行わない。理学部では約半数の学生がいまだに登録をしていないと Supot 教授は言う。

Supot 教授の考えによれば、受験生たちはタイ医学学校協会の入試結果を待っているか、他の大学の個別入試に豪合格してそちらを選び、チュラロンコン大学にその旨を報告していないという。

Sirichai 氏によると、理系の受験生はチュラロンコン大学を含む多くの大学を受験し結果を知らされ、チュラロンコン大学が結果通知をするより前に、そちらの大学に登録する。

昨年起きた問題と似たようなものだと Supot 教授は言う。

18 歳の学生 Paris Jarupan はタマサート大学の個別入試に合格したにもかかわらず新入生としての登録を行わなかった。キングモンクット工科大学ラックラバン校の個別入試にも合格したためそちらに登録し、すでに 17,000 バーツの学費を支払った。しかし、このあとチュラロンコン大学の個別入試に合格していればキングモンクットは諦めるつもりでいる。

「われわれがこのまま放っておけば数年後にはもっとひどい混乱が生じるだろう」と

Sirichai 氏は警告する。

両学部長によれば、統一入学試験では、特に科学・工学系の受験生の質を量ることができず、そのために各大学はより多くの学生を個別入試で選別するようになった。しかし、この制度によって経済的な負担が大きくなり、富裕層と貧困層の間で教育の機会均等が保たれなくなった。多くの学生が授業を休んで、大学入試を受けるようになった。

チュラロンコン大学学長の Pirom Kamolratanakul 教授は「統一入試がちゃんと選別機能を果たすのであれば、チュラロンコン大学はすぐにでも個別入試での入学量を調整する」という。昨年は、121,000 人の学生のうち、67 パーセントは個別入試、33 パーセントが統一入試により入学した。

しかし、2011 年の入試システム評価パネルメンバーである Amnuay Soonthornchote と Kamolpan Cheewapansri は火曜日の会議で Chinnaworn Boonyakiat 教育大臣に対し、統一入試の人員をこそ調整するよう提言する予定でいる。

Kamolpan 氏はまた、タイ学長協会が入試において、内申にあたる累積成績平均点 (GPAX) の占める割合を現在の 20 パーセントから 5 パーセントに減らすことを望んでいる。学校によって評定の基準が異なるため、公正な選別ができないとする。Kamolpan 氏は 2 月 8 日に、教育を担当する政党である民主党に提案書を提出するつもりでいる。

Paris は、各大学は、地方の学生には機会均等を負担軽減の観点で、一般専門適性テスト (General and Professional Aptitude Tests) の点数を使えるようにしてほしいと言う。

一方で、高等教育委員会事務局では、個別入試センターの立ち上げに力を入れている。受験生に個別入試の情報提供を行ったり、申込書の受付を行う集約的な組織である。各受験生は一度に 5 つの大学を選ぶことができる。

これにより申しこみのために各大学を駆けずり回る必要がなくなる、と事務局長の Sumet Yaemnoon は言う。

高等教育委員会事務局では受験生、親、バンコク及びその他地域の関係者の意見を集め、すべてのグループから前向きな反応が得られれば、11 月までにセンターを立ち上げる予定である。2012 年の入試に間に合わせるために。

Sirachai 氏は、多くの大学の教育学部は来年、個別入試を共同して組織するだろうという。経済的な負担を減らせるよう各県で入試を受け、その点数を自分の好きな大学の教育学部に送れるように。

Supot 教授は、物理、科学、生物に関しては別個の専門能力試験 2 (理科系) (Professional Aptitude Test 2 (science subject)) を受験させて、統一受験数を調整するべきだと、タイ学長協会を促している。彼によれば、現在の専門能力試験 2 は 3 科目で、タイ語または英語の試験が 100 点満点である。そのため、言語が得意な学生が統一入試を合格して科学や工学部に入ってしまうことがある。そういった学生は理科系の科目が得意でないため、理系の勉強、特に物理で、成績が悪い。

「もし統一入試がうまく調整できるのなら、個別入試を行う必要はない」と彼はいう。

(2011 年 1 月 30 日 Nation 紙)

## ■ 2012 年の統一入試に向けた合意 ■

個別入試を受験するために大学まで出向かなくてはいけない、という最近の問題の終息に向けて、「統一個別試験」が実施される見込み。昨日のタイ学長理事会の決定が、タイ学長理事会議長でタイ学長協会長の Prasart Suebka 教授から発表された。

「我々は個別入試により 2012 年の入学試験

を好まないことに決めた。そこでタイ学長理事会のメンバーと早急に詳細を詰める」と、入試フォーラム委員会の議長 Pong-in Rakariyatham 助教は語っていた。タイ学長理事会の会合は、ナコンラーチャシマー県のスラナリー工科大学で行われた。

Pong-in 助教は統一個別試験は高校 3 年生を対象に第 2 セメスターに実施される。タイ学長理事会が懸念していた、入試のために授業に出ないことを避ける目的だ。

「おそらく 1 月に実施するだろう」と Pong-in 助教は言う。

彼によると、試験は一般専門適性テスト (GAT と PAT) を提供している国立教育テストサービス研究所 (NIETS) の全国の所在地で実施されることになる。タイ学長理事会はおそらく、NIETS に統一個別試験実施の権限を与えるだろう。

タイ学長理事会は受験生と大学の間のコーディネーターとしての役割を果たすことになる。受験者の点数を大学に連絡するなどする。

Pong-in 助教はタイ学長理事会のメンバー校である 27 校が統一個別試験に参加することを期待している。

この他に会合で合意に至ったのは、GAT と PAT を年に 2 回、10 月と 3 月に実施すること。これまでの 7 月実施は中止される。タイ学長理事会は、累積成績平均点 (GPAX)、国家教育試験、GAT と PAT の 2011 年の統一個別試験での比重を同じにする予定だ。Parasart が語ったところによれば、チュラロンコン大学は PAT7 (外国語) の一部としてスペイン語のテストを実施するという。

会合はまた、工学・理学の学部長がの PAT2 (理科系) から物理、科学、生物を別個に分ける要求を出したことに対し、Pong-in 助教が適切な対応を取るように決定した。

しかしながら、Parasart 教授によると、個別入試と統一入試による入学数の割合は 50 対 50 である。(個別入試のうち特待生枠は除く)

Chaiyos Chiramethakorn 教育副大臣も会合に参加し、今回の解決に満足していると語った。彼は以前から、タイ学長理事会に対して、受験するための親と受験生の経済的な負担を減らすよう求めている。

(2011 年 2 月 13 日 Nation 紙)

## ■ 科学技術省、研究開発を推進 ■

科学技術省事務次官 Pornchai Rujiprapra.によると、タイは農業、再生可能エネルギー、地球温暖化対策に向けた研究開発に一層の投資を進めていく方針。

同省では、GDP 比 0.21 パーセントの研究開発費を 1 パーセントに引き上げることで技術革新を促し、タイ経済のより高付加価値化への移行目指している。

「政府としては民間セクターの投資を 2 種類の研究開発、つまり、既存産業での研究開発と再生可能エネルギーなどの未来型産業への研究開発へと導きたいと考えている」と Pornchai 事務次官は言う。

彼が世界的な研究コンサルタントに関する出版社である Oxford Business Group に語ったところによれば、人的資源の質と既存の産業ベースにおける競争力を理由にタイにおける経済的な革新性に自信をもっているとのこと。

科学技術分野における人材育成の国家戦略については、具体的には、留学している 3,000 人以上の学生向けの奨学金制度などがある。そういった学生の多くは、イギリスのオクスフォードやケンブリッジ、アメリカの MIT やスタンフォード、カルテックといったアメリカのアイビーリーグに所属している。

海外から先進的な知を吸収するだけでなく、国内での人材育成についても国内研究機関や大学内に海外研修を取り入れたり、チュロンコン、タマサート、AIT、カセサート、マヒドン、キングモンクット工科大学などの各国立大学と私立大学間での協力により進められている。

さらに、政策支援や助成金、ソフトローンなども組み合わせることで、技術革新をパッケージとして推進している。

「研究開発に投資することによって競争力のある部分を一層強化する必要があります。米、ゴム、バイオプラスチックといった食料分野と農業分野を含む先進産業クラスターで研究開発に投資することが目標です。これらの革新はタイ産業の国際的な競争力を強化するのみでなく、農業製品の生産性と価格を向上させることにより地方経済にも利益をもたらすことになるのです。地方での生活水準を向上させることと組み合わせることにより、科学技術を用いた両輪的な発展が、持続可能な未来をもたらすことになるのです」と彼はいう。

Oxford Business Group では今、タイ投資委員会と連携により出版する予定の経済活動と投資機会の指南書である「The Report: Thailand 2011」の研究開発の章を科学技術省と共同して作成している。

タイ投資委員会により提供された研究部門への投資に対する税制上の優遇は国内外の投資家にとってとても魅力的であると、Pornchai は言う。研究開発促進に向け、投資委員会および財務省と共同し、科学技術省ではミシュランや東芝といった、タイ国内で研究開発を行う知名度の高い企業の数と同定した。

経営面と研究開発面でのインセンティブを組み合わせることは、タイを研究基地としていく上で必須であるという。

「いわゆる「中所得国の罠 (middle-income trap)」を抜け出すためには、世界経済の前面

に出られるよう研究に投資するほかに、我々は気がついている。よくトレーニングされた科学技術労働力、科学技術のトレーニングサービス、研究開発における投資効果、海外からの投資促進政策、投資に向けた政府の支援、そしてホスピタリティを組み合わせることで、我々は東南アジアにおけるイノベーション・ハブを目指すのです」と事務次官は言う。

(2011 年 3 月 1 日 Nation 紙)

## ■ 10 個の重要課題に対し、150 億バーツの教育改革予算を措置 ■

教育評議会の事務局長 Sutthasri Wongsaman は、アピシット首相が議長を務める教育改革政策委員会が、緊急課題解決に向けて、来年、158 億バーツを措置することに合意したと語った。

同委員会では、教育改革に向けて、来年から 2018 年までに総額 3,700 億バーツの予算措置で基本合意に達しており、今回の 150 億バーツはそこに踏まれるものである。

10 個の緊急課題は以下のとおり。

- 理科、数学の成長
- テクノロジーとタイ語、英語とその他の外国語
- 授業と実践が 7 対 3 の割合になるカリキュラム
- 道徳及び学識的背景をもった新世代の教員の養成
- 人材が不足している分野の教員を、従来とは異なる方法で見つけること
- 小規模自治体 (tambon level) の学校の質改善プロジェクト
- 学生の学業成績向上に向けた教育セクターと学校間での覚書の締結
- 小規模の学校の吸収合併
- 就業者及び高齢者のための職業訓練学校と高等教育機関の開設
- 教育に向けた情報技術

今週の会議で首相は新卒失業者と労働市場に資する教育の問題の解決に向けて関係各機関の協力を要請するだろう。多くのプロジェクトが4つの地域で1年以上実施されており、その改善のための評価の実施を、委員会が認めている。私のオフィスが評価を担当しており、すでに情報収集にあたっているほか、その後の進展をフォローしている。次回の委員会で報告を行い、それが内閣に伝わることになるだろう、と Sutthasri は語った。

委員会は貧困または貧困に近い学生の教育へのアクセスについて深刻な注意を払うよう促している。また、職業訓練小委員会は、同委員会にて、職業訓練学校の学生数を戦略的に増加させる提案を行った。

(2011年3月5日 Nation 紙)

## 1月

- 6日(木) JSPS 国際フォーラム「Climatic Changes in Monsoon Asia (CCMA)」開催 (7日まで)
- 11日(金) 京都大学情報学研究科 荒井修亮 准教授来訪・打ち合せ
- 13日(木) JAXA バンコク駐在員事務所訪問・打ち合せ
- 19日(水) 京都大学エネルギー科学研究科大垣英明 教授 来訪・打ち合せ
- 20日(木) JASSO バンコク事務所との事務所共用について協議
- 22日(日) 神戸大学バンコク同窓会式典出席
- 24日(月) NRCT 表敬・打ち合せ
- 28日(金) カセサート大学へ Dr. Busaba タイ国 JSPS 同窓会長を訪問・打ち合せ

## 2月

- 1日(火) 東京大学生産技術研究所 小森大輔 助教及び京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 佐治史 博士後期課程学生 来訪・打ち合せ
- 2日(水) IMPACT にて Inventor's Day を視察
- 3日(木) タイ国同窓会ワークショップ Workshop on Biochar: a Carbon Negative Technology Approach to Urban Community Development を開催
- 4日(金) 第2回タイ国同窓会総会開催  
JSPS-NRCT 論文博士号取得者に対するメダル授与式を開催
- 5日(土) 京都大学地域研究情報統合センター 林行夫 センター長らと会食
- 6日(火) ラオス出張(8日まで)。日本森林技術協会の現地報告会に参加 (7日)
- 11日(金) 京都大学 塩田浩平 理事・副学長、清水展 東南アジア研究所長等、来訪・打ち合せ  
京都大学タイ国同窓会視察
- 12日(土) 京都大学東南アジアフォーラム視察
- 15日(火) お茶の水女子大学の委託事業によるオフィス利用最終日
- 16日(水) Dr. Busaba タイ国 JSPS 同窓会長来訪・打ち合せ
- 23日(水) 国際協力機構(JICA) 研究所主催ワークショップ視察
- 25日(金) JASSO 樫尾孝 理事来訪・打ち合せ
- 28日(月) ロンドン研究連絡センター 平松幸三 センター長来訪

## 3月

- 1日(火) スリランカ出張(5日まで)モラトゥワ大学工学部長訪問・打ち合せ(3日)  
UGC 訪問・打ち合せ(4日)
- 8日(火) 京都大学-AUN ワークショップ参加・事業説明
- 9日(水) 立命館大学 島村靖治 准教授 来訪・打ち合せ
- 10日(木) 京都大学 VKCO 新江利彦所長 来訪・打ち合せ  
京都大学バンコク連絡事務所 柴山守 教授 及び 星川圭介 助教来訪  
JST 矢野シニアプロジェクトマネージャー来訪・打ち合せ
- 23日(水) 在タイ日本大使公邸にて国費留学生壮行会視察
- 29日(火) サイエンススクエアにて、Discovery Science: The secret of Nano Technology 視察
- 30日(水) 第4回同窓会理事会及び BRIDGE Fellowship 選考会開催

## Map of JSPS Bangkok office

Please show this document to a taxi driver

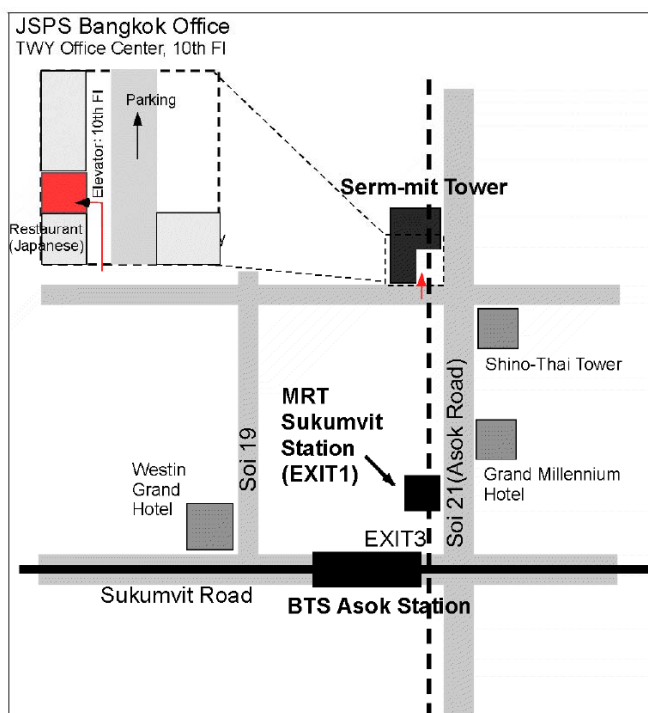
In English:

Please go to JSPS Bangkok office  
Serm-Mit Tower at Sukhumvit Soi 21 (Asok)

In Thai:

เดินทางมาที่ เจเอสพีเอส สำนักงานกรุงเทพ

มาส่งที่อาคารเซิร์มมิตร์ ซอยสุขุมวิท 21 ( อโศก )



Bangkok office

Japan Society for the Promotion of Science (JSPS)

113 TWY office center, 10F, Serm-mit Tower

159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110 Thailand

Tel: 02-661-6453

---

日本学術振興会バンコク研究連絡センター / JSPS Bangkok Office

113 TWY Office Center、10th Fl. Serm-mit Tower

159 Sukumvit Soi 21、Bangkok 10110

Tel: +66-2-661-6453 Fax: +66-2-661-6454